

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 9 / 15 }
平成29年(2017年)
No.2211

すぎなみ舞祭。
地域に根差し次世代へ。

「思い切り踊りを楽しみたい！」という子どもたちのエネルギッシュなダンスパフォーマンスが見る人を感動させる、踊りの祭典「すぎなみ舞祭」。節目となる10回目を迎え、区民はもちろん、全国各地の踊り手からも注目される一大イベントとなったすぎなみ舞祭の魅力について、立ち上げの中心人物であり、現在も実行委員として運営を支える杉浦智恵さんにお話を伺いました。

特集

すぎなみビト

杉浦 智恵

Contents — 主な記事 —

6 | 結核予防週間 7 | 動物愛護週間 8 | 杉並区総合文化祭 9 | スポーツフェスティバル 16 | 秋の全国交通安全運動

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



すぎなみピト



interview

杉浦智恵

杉浦さん率いるチーム Dancin' Festa 舞祭組



プロフィール(写真右):杉浦智恵(すぎうら・ちえ)。ダンスチーム「Dancin' Festa舞祭組」代表。通訳者。平成3年から9年間を米国や香港など海外で過ごす。12年から杉並区在住。同年、地域の子どもたちとともに「Dancin' Festa舞祭組」を結成し、ダンス指導・振り付けを行うようになる。19年からすぎなみ舞祭の立ち上げ準備を手掛け、翌20年に第1回すぎなみ舞祭を開催。現在、すぎなみ舞祭実行委員会の委員を務める。

「舞祭があるから、たまには帰ってみようかな」と 思ってもらえたら。

気が付けば舞祭の発起人に

—杉浦さんは、どんな経緯ですぎなみ舞祭の設立に携わることになったのですか。

元をたどれば、井草中学校の野球部の息子さんがいるお母さんたちの集まりに顔を出したことがきっかけです。「子どもたちのエネルギー発散を目的にダンスチームを作ろう」という趣旨の集まりでした。ちょうど「南中ソーラン」(※)が話題になり、踊りの教育的な効果が注目され始めた頃のことです。



私はダンスを経験したことがなかったので、当初は「メンバーの一人として参加できればいい」という程度の気持ちでした。でも、誰も積極的に関わろうとしなくて、「これからどうするんだらう」と思っているうちに、なぜか私が中心になって子どもたちのダンスチーム「Dancin' Festa舞祭組」を結成することになってしまいました。

—ダンス未経験の杉浦さんがダンスチームを率いるようになったとは驚きです。

やはり、そう思いますよね。でも、「やってみたい」と思っ

たんです。井草中学校のお母さんたちとダンスのワークショップを開催したときのことで。振り付けをお願いした大江戸人祭ダンサーのお姉さんが、子どもたちに「皆さん、上手になったね。次からは皆さんが先生だよ」と言ったんです。皆、まだちょっとしか踊れないんですよ。それを聞いて「そうか、私も先生になれるんだ」という気持ちが湧き起こりました。あの一言がなければ、今の自分はなかったと思います。

—その後、杉浦さんのチームは、第1回「大江戸人祭」に出場して優勝しました。

あの優勝で、私は舞祭から逃げられなくなってしまいました。だって、子どもたちの心に火を付けてしまったのに、「頼まれたからやっただけ」だなんて言えないじゃないですか(笑)。それからは、ずっと走りっぱなしです。杉並にダンスイベントを作ろうという話が持ち上がり、またもや何も言っていないのに私が発起人ようになってしまい、杉並区の担当部署の方にアドバイスをいただきながら、たくさんの関係者の間を行ったり来たりして実行委員会を立ち上げて…それから、さらに1年をかけて第1回すぎなみ舞祭の実現にこぎ着けました。大仕事を振り返って「目に見えない何かに突き動かされてやった」と話す人がいますが、当時の私は、まさにそういう状態だったと思います。

舞祭が結ぶ地域の絆

—地域に貢献したいという思いもあったそうですね。

「地域での子育てを実現したい」とずっと考えてきました。その思いを形にたくて、私たちのチーム「Dancin' Festa舞祭組」では、中学生までのお子さんは必ず親子で会員になってもらうというルールを設けていま

す。そうすれば、子ども同士だけでなく、親同士も交流できるからです。今の時代、親子一緒に何かに一生涯命打ち込むのは簡単なことではありません。ほかのチームでは、なかなか同じようにいかないという話も耳にします。でも、だからこそ私たちは、たとえそれが時代に逆行していたとしても、親子でやっていきたいと思っています。

—一人の輪が広がるのも、すぎなみ舞祭の魅力の一つです。

すぎなみ舞祭のおかげで、うちのチームはダンスが上手になっただけでなく、たくさんの人と知り合い、仲良くなることができました。そして、忘れてはならないのが、実行委員会や町会の方々を中心に支援の輪が広がっていったことです。本当にたくさんの方が、子どもたちのためにと力を尽くしてくれました。

舞祭には人を動かす力があるのだと思います。第1回すぎなみ舞祭が実現したときも、「こんなイベント、やる意味があるのか」「どうしてよそ者が先頭に立っているんだ」という山ほどあった反対の声があったという間に吹き飛んでしまいました。「子どもたちの元気な踊りが全てを変えたんだ」と思いましたね。

—今後、すぎなみ舞祭をどのようなイベントにしていきたいとお考えですか。

区民の皆さんに「地元の祭り」として親しまれるイベントにしていきたいですね。例えば、杉並を離れてしまった人に「舞祭があるから、たまには帰ってみようかな」と思ってもらえたら、とても素晴らしいと思います。

私は夫の転勤で国内外のあちこちに移り住んできた経験から、いつでも帰ることができる“ふるさと”があることのありがたみを痛感しています。



智佳さんと一緒に今年から実行委員となった友人とその子どもたち。子どもたちも今年からダンスチームに入り、すぎなみ舞祭へ参加予定。

母が盛り上げてきた舞祭を次世代へ

小学5年生の頃から、ずっとすぎなみ舞祭に参加してきた私は、すぎなみ舞祭に育てられたようなものです。この活動を通じて茨城にも友達ができまし、山形のダンスチームの振り付けもしました。そんな、いくつもの経験を積むことで私は成長できたので、これからは私から杉並の子どもたちに、たくさんのお話を伝えていきたいと思っています。

今年から、私や、同じチームでダンスをしてきた友人たちが実行委員会に入りました。この10年間で母が作り上げた舞祭の魅力に、一層磨きをかけられるように、若い世代が力を合わせて頑張っていきたいと思っています。



杉浦智恵さんの娘・智佳さん。すぎなみ舞祭開催当初からダンスチームの一員として、参加してきた。

すぎなみ舞祭公式パフォーマンスチーム Cedar☆Youth (シーダージュース)

区内外のイベントで、すぎなみ舞祭のPRダンスパフォーマンスにより、そのイベントを盛り上げると同時に、活動を通してメンバーの自主性や社会性を育てるために結成されたグループで、今年、6期生として11名のメンバーで活動しています。



チーム全員で、イベントを盛り上げます!

event 第10回記念 すぎなみ舞祭2017

10月15日(日) ① 蚕糸の森公園・杉並第十小学校 (和田3-55-49) ② 東京メトロ丸ノ内線「東高円寺駅」から徒歩2分

すぎなみ舞祭は、参加する子どもたちが自分たちの住むまちに愛着を持ち、ダンスを通して健やかに成長することを目指しています。また、町会・自治会や商店会が地域の青少年育成団体とともに実行委員会を立ち上げ、参加者とともに作り上げている子どもが主役の踊りの祭典で、イベントを通して人と人がつながり、地域の絆を育んでいます。「おどる! たべる! あそぶ!」が体験できる子どもも大人も一緒になって楽しめるダンスイベントです。

